

172
681
6

先分

且

河村幸速
敬写



七
[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, possibly a letter or document fragment.]

門二 2
疏
卷

差分卷之五



浪九百五拾月之人麦少麦少及等ノ黄ノ人麦
ハ三石ノ代浪以拾五石小麦ハ三石ノ代浪之拾五
石石教何程ノ向



善田

大麦拾五石
小麦拾五石

代浪拾五石
代浪五石五拾五石

想代限の形

等石敷	小麦	等石敷
等石敷	小麦	等石敷

麦之如

等石敷	小麦	代限	代限	小麦	等石敷
等石敷	小麦	代限	代限	小麦	等石敷

故新想代限九百六十と並實と次小麦小麦

等石敷代限合四十と法と次六十と實と次除て
 新と代限者等石敷と次合間

鶏巻之指六十と足敷一百二十と鶏巻者
何れ向

首曰 鶏十一
 巻二十

首は足敷一百二十の形也

鶴三二

鶴三二

鶴三二

鶴三二

鶴一

鶴一

鶴一

鶴一

と圖變之

鶴三二

右其の足數變形とんふ鶴形合之指六十

鶴三二と云ふは二十と云ふは二十と云ふは二十

と減して余一のと

四足二足のサニ

四十一

鶴三二

四足二足のサニ

故に測鶴形合之十を並鶴の足かと云ふ

二十と云ふは二十の足數二十と減して余

十減はるは二十の足數二十の足數二十

減しと余りかとは法と取めて定むと簿を二と
 けり急の較と取れり六のり急の較二と
 減し急の較一とゆる合間

大豆中豆合む百弍拾八俵 六代取指の言目
 但大豆一俵代取指のりく小豆一俵代取指
 取れり俵取何行とる

昔因大豆二百二八俵 小豆百俵

共代取指上りるの形

大豆一俵代取指 六代取指	大豆一俵代取指 六代取指
小豆代銀	大豆代銀
小豆一俵代取指 六代取指	大豆一俵代取指 六代取指

之 変

大豆一俵代取指 六代取指	大豆一俵代取指 六代取指
目百貫二	目百貫二
大豆一俵代取指 六代取指	大豆一俵代取指 六代取指

大豆の代取の变形をとんで九の俵取八俵代取大豆

左儀の代銀二十と余二十と
二十とゆつてたの
 代銀二十と減二十とゆつてた
二十とゆつてた

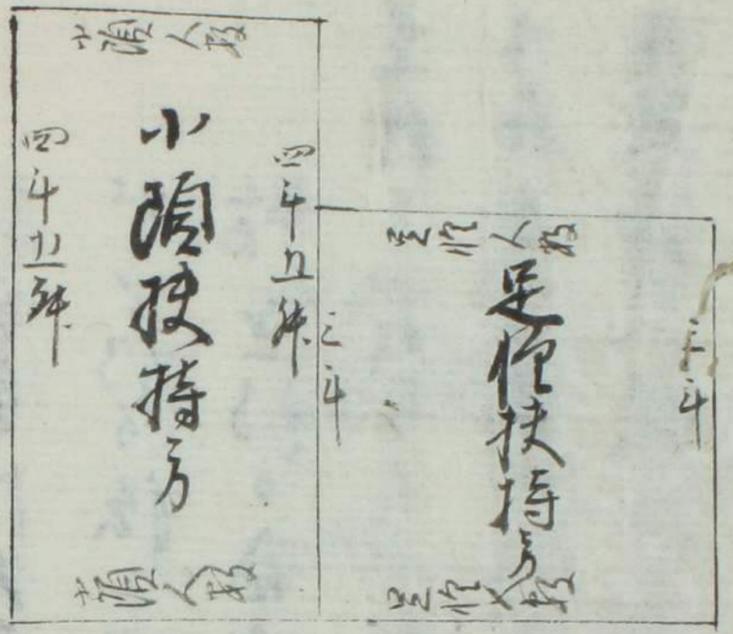
代差 <small>二十</small>	日百貫 <small>二十</small>	代差 <small>二十</small>
----------------------	-----------------------	----------------------

故に例共儀數五と金大皇左儀代二十
二十と余二十とゆつてた
二十とゆつてた

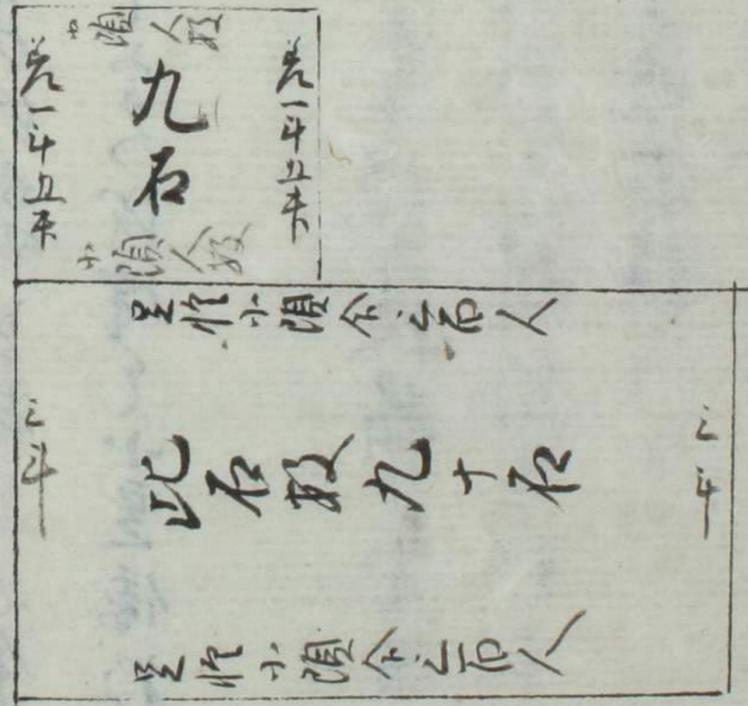
減二十と余二十とゆつてた
二十と余二十とゆつてた
二十と余二十とゆつてた
二十と余二十とゆつてた

是れと少儀と大儀と
 九右あり但少儀と
 是れと少儀と大儀と
 是れと少儀と大儀と

惣扶持片九拾九石の形



之 変



右惣扶持片片の變形を以て九人扶持と云ふ

武人扶持片片を以て九石と云ふ

片九石と云ふ



故中御共人扶持片と云ふ

石九石と云ふ

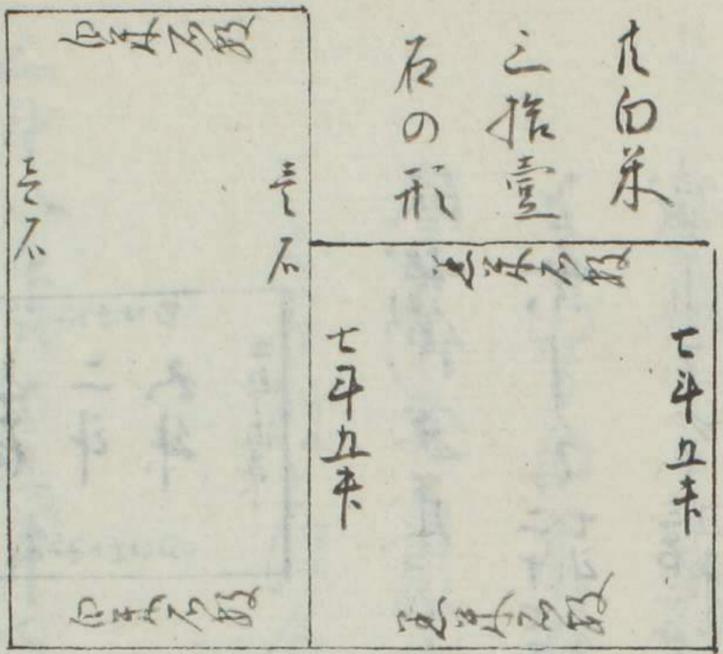
石九石と云ふ

石九石と云ふ

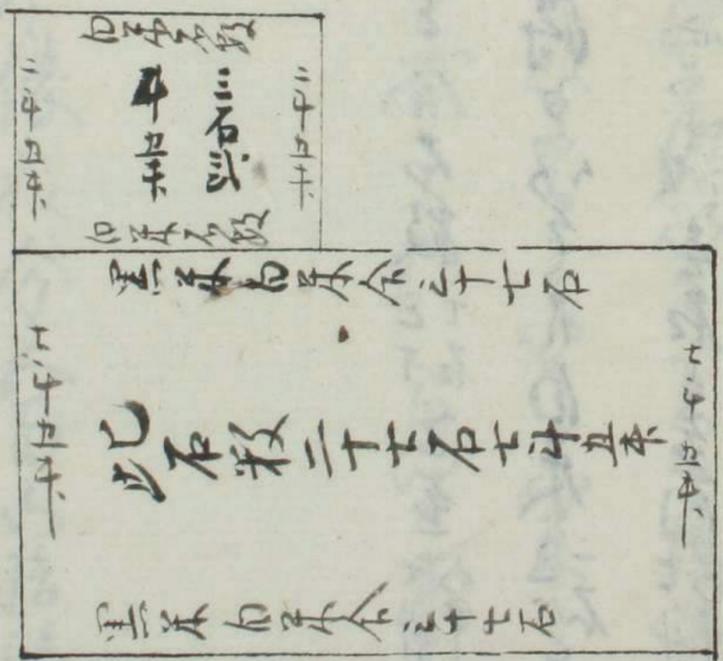
摺折之と減して茶葉と法の原以て
 実と陰て少人の数と為りて其の人数
 人成減して茶葉は人の数と為りて其の人数

茶葉と白米と合て之積て右の茶葉成着
 白米と合て人少之積と右の茶葉成着
 白米と合て人少之積と右の茶葉成着

昔曰茶葉二千石 白米指之右



之 麦



右麦形と合て茶葉と白米と合て
 二十石
 七斗五升

減しと案 ^{二石二} _{斗五斗} とゆるぬのこし

二斗五斗	二斗	二石	二斗五斗
二斗五斗	二斗	二石	二斗五斗

故に御玉米と白米と合ふ穀 ^{二石} と並 ^{七斗}

と案 ^{二斗五斗} と得日 ^{二石} 以て入白米 ^{二石} と

減しと案 ^{二斗五斗} と均定 ^{二斗} 以て入 ^{二石}

と減しと案 ^{二斗五斗} と法 ^{二斗} 以て定 ^{二石} と並 ^{七斗}

とゆる白米と穀 ^{二石} 是 ^{二斗} と以て玉米と白

米と合ふ穀 ^{二石} と減 ^{二斗} 以て入 ^{二石}

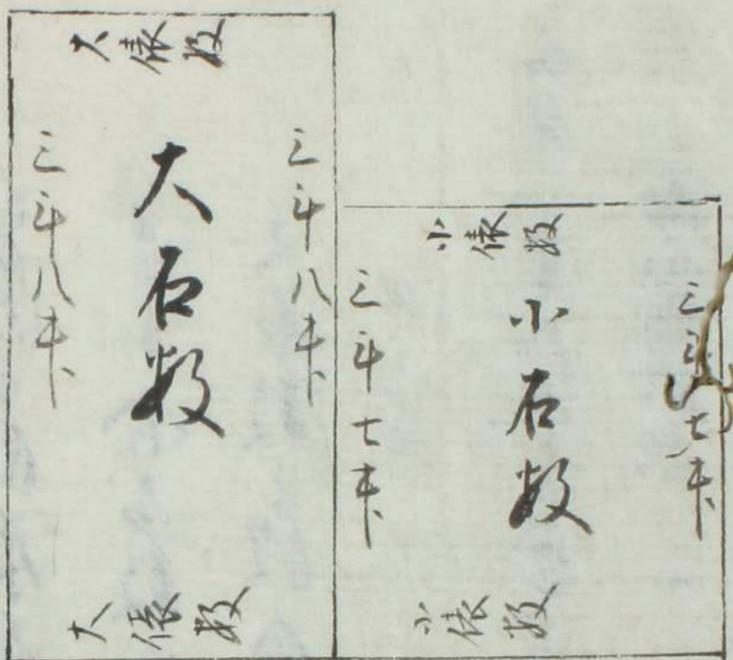
之石穀 ^{二斗} 以て合 ^{二石}

二斗八斗入と二斗七斗入と俵 ^{二石} 分 ^{二斗} 白米 ^{二石}

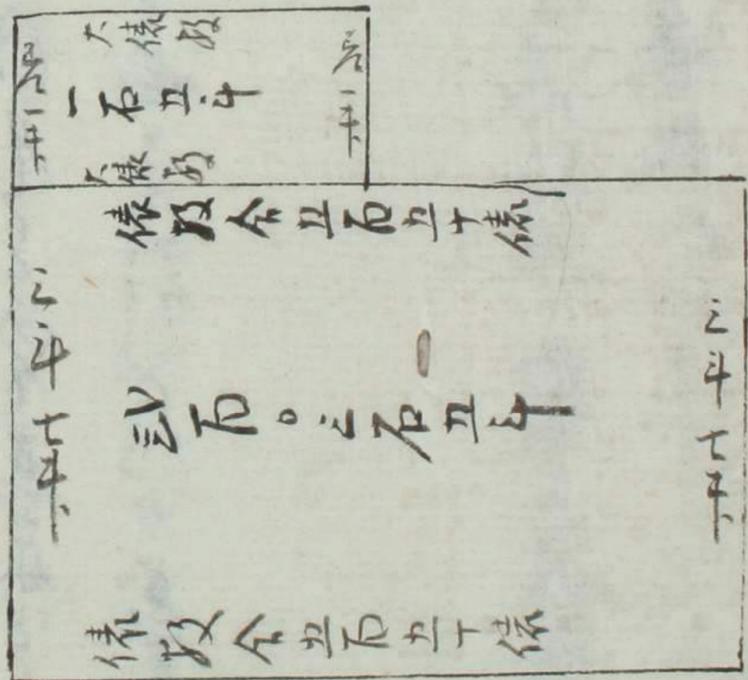
其の ^{二石} 穀 ^{二斗} 以て入 ^{二石} 俵 ^{二斗} 何れと

善 ^{二石} 四 ^{二斗} 人 ^{二石} 白 ^{二斗} 米 ^{二石} 俵 ^{二斗} 小 ^{二斗} 四 ^{二斗} 石 ^{二斗} 俵 ^{二斗}

其石敷二百。大石の形



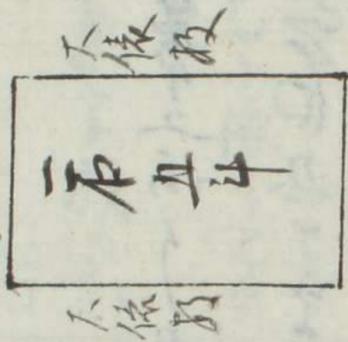
之 変



石敷形をらんて依敷余^{二斗八升}と^{二斗七升}と

宗^{二斗八升}と^{二斗七升}と^{二斗八升}と^{二斗七升}と

宗^{二斗八升}と^{二斗七升}と^{二斗八升}と^{二斗七升}と

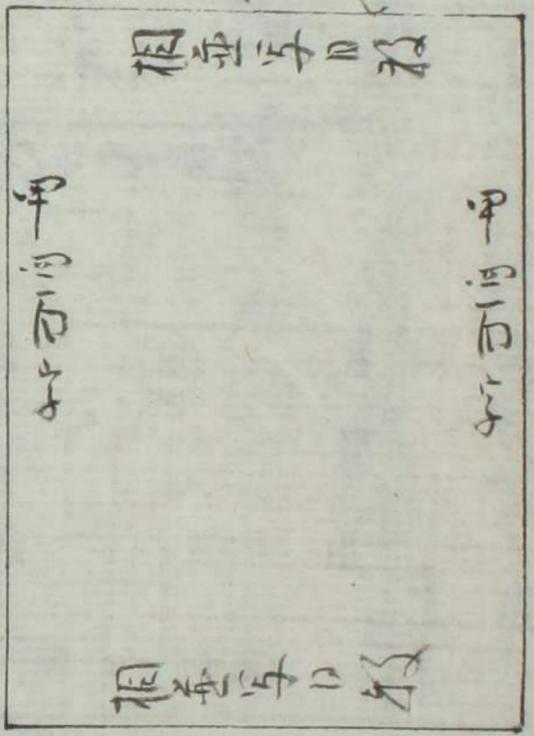


加中術依敷合増^{二斗八升}と^{二斗七升}の^{二斗八升}と^{二斗七升}と

右^{二斗八升}と^{二斗七升}と^{二斗八升}と^{二斗七升}と

と^{二斗八升}と^{二斗七升}と^{二斗八升}と^{二斗七升}と

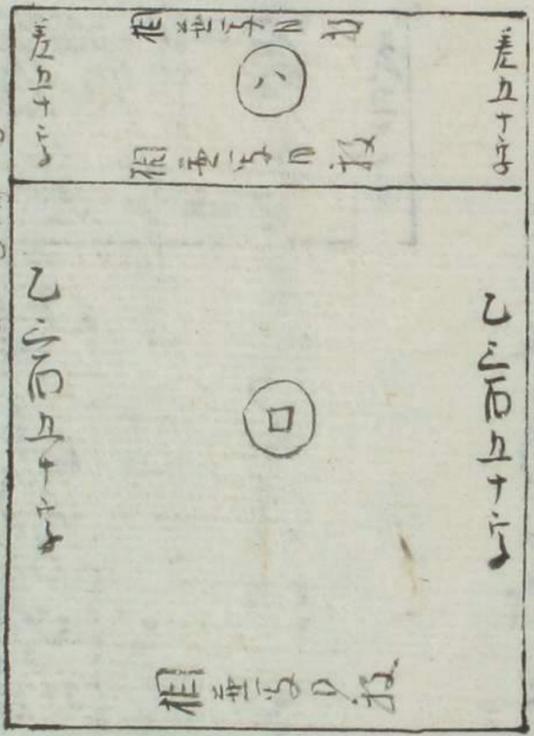
甲子依てん分
 乙子依てん分



右甲責

右甲責と乙責の扱

甲責を變へたる



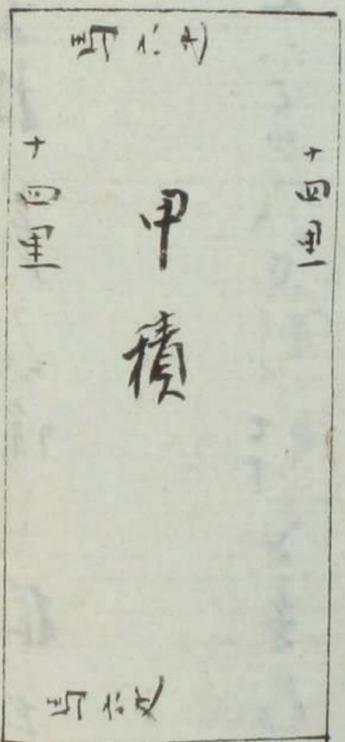
麦甲責

右麦甲責の扱とん分小甲責とハ責と○責との和と
 乙責と①責と②責と③責と④責と⑤責と⑥責と⑦責と⑧責と⑨責と⑩責と⑪責と⑫責と⑬責と⑭責と⑮責と⑯責と⑰責と⑱責と⑲責と⑳責と㉑責と㉒責と㉓責と㉔責と㉕責と㉖責と㉗責と㉘責と㉙責と㉚責と㉛責と㉜責と㉝責と㉞責と㉟責と㊱責と㊲責と㊳責と㊴責と㊵責と㊶責と㊷責と㊸責と㊹責と㊺責と

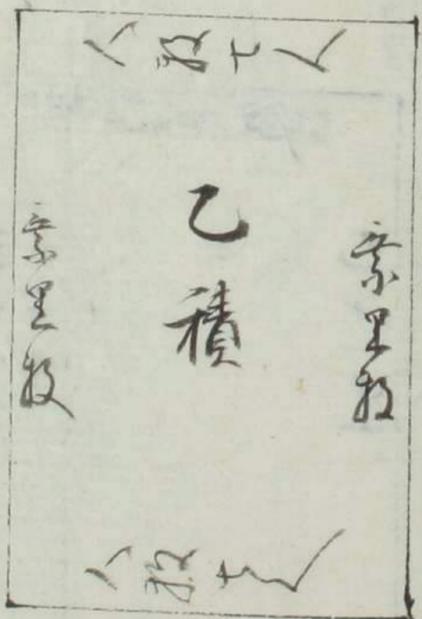
人投七人の送十四里馬（一）と夜各里投
 云甲乙和馬小宗、主人の馬小宗、里投
 及歩行里投何れと句

音口

馬小宗、里投指二里宛
 歩行里投或里宛



甲責と乙責と
 以般々



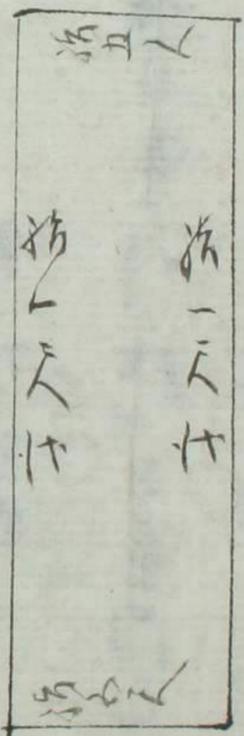
故以術馬と至行送點と宗一と實
 と般人投七人と法と以て定て得て
 馬小宗、里投指二と歩行送點
 と減して宗歩行里投二と以て今句

の代をうへに括二又多一者行れと白

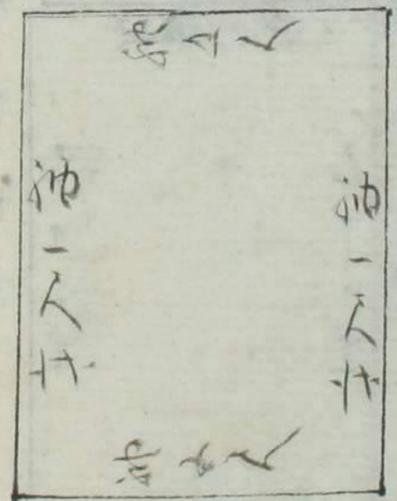
言口

縮を人の代 百文
 縮を人の代 百文
 縮を人の代 百文

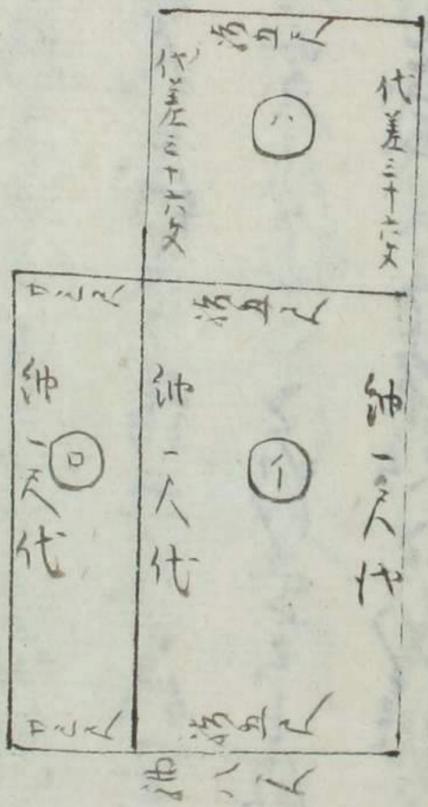
縮代減の形



縮代減の形



右両図相重
 てんが形



右の図とてんがふ①②の責今と縮の代減①②
 の責今と縮の代減①縮を人の代と縮八人の代と
 等しとてんが縮の代減①②責と減しとてん
 素④の責と縮の代減の門①責と減しとてん素④

法四丈と練人十丈一丈式人として術と起境

似練人の重原との六曲人の扱と至八分

と糸一と練人の扱し

絹綿酒具練人巾一と扱人四より五倍且丈の取

絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人
絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人

絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人
絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人

此形とるて綿酒をこの天二段とびくたの七扱

四糸一の扱二百二十甲 是とん也練人四百六十と扱

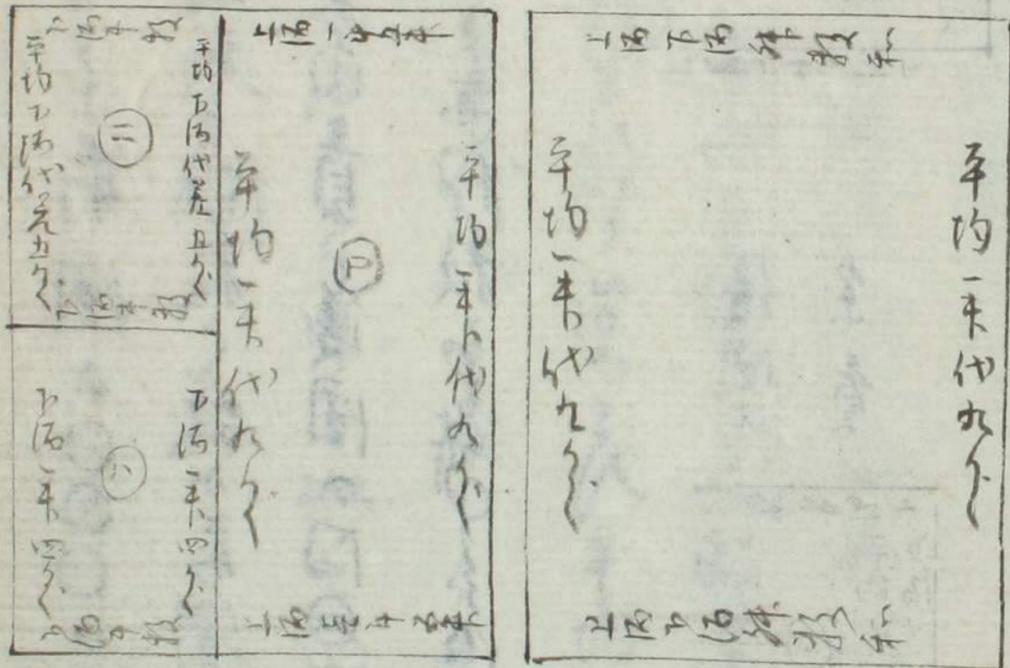
と糸一と練人の扱

絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人
絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人	絹一と五丈式人

故印術綿酒具人四と至定法八と糸一と

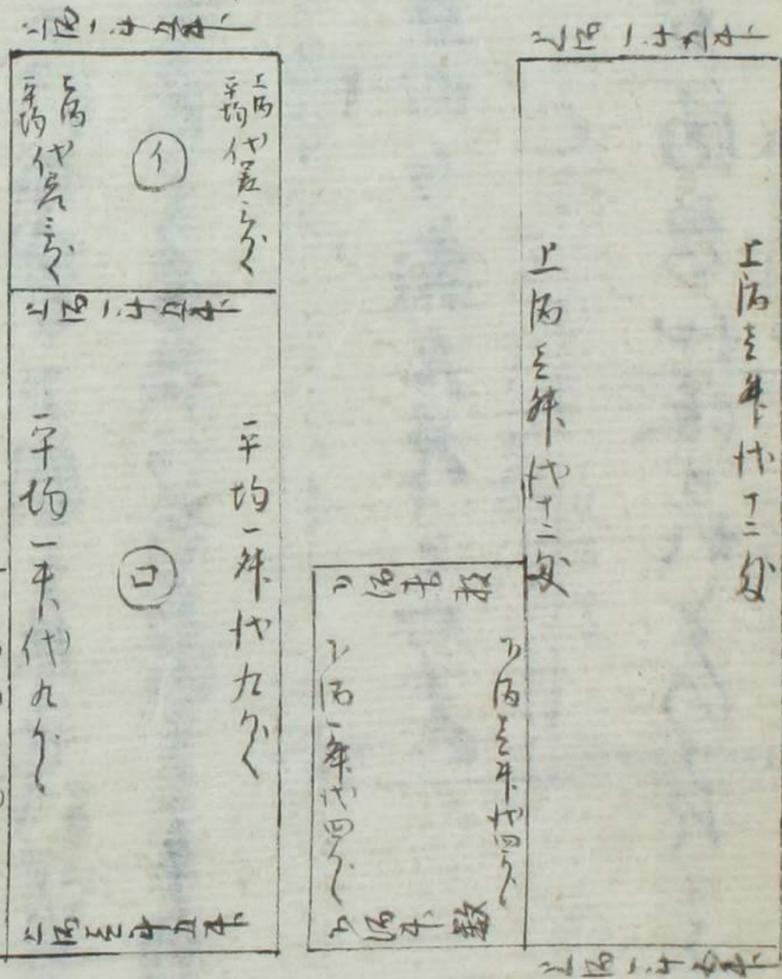
石の團

平均の依り
とありの代
限一折



石の團

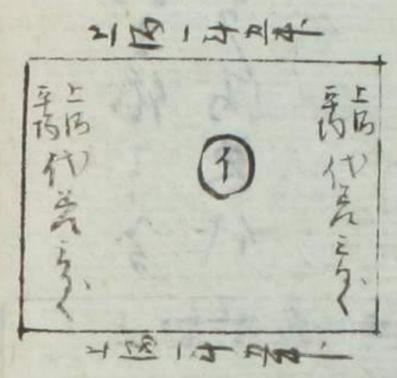
石の團



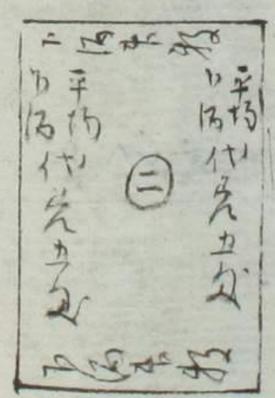
石の團

右前後両図を比べると前図の①②③の責を
 後図の①②③の責とほぼ同じ故に前図の④
 ①の責と減して②責と後図の④⑤⑥の責
 と減して③責と亦同じ故なり

前図の
 全責



後図の
 全責



右両図は教く

故に術上の両を併せて其の平均を求む
 此と減して②と併せて其の平均を求む
 と併して④と併せて其の平均を求む
 此の平均を求むと減して③と
 併して其の平均を求むと併して其の平均
 の平均を求む

古史圖說

史記卷一百一十五

匈奴列傳

匈奴者天之驕子

也

其俗風氣

與中國不同

故其言語

文字亦異

然其性剛

直

此心為善則善矣

此心為善則善矣

此心為善則善矣

